

水防災意識社会再構築ビジョン

～施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生する、との認識のもと、地域で一体となって減災に取り組みます～

平成32年度を目途に「水防災意識社会」を再構築する取組を行います。



関東・東北豪雨による鬼怒川の決壊（茨城県常総市）



決壊による被害状況（常総市）



関係者が参加した排水訓練を現地で実施（桶川市）

水防災意識社会再構築ビジョンとは？

2015（平成27）年9月関東・東北豪雨災害では、鬼怒川において越水や堤防決壊等により浸水戸数は約一万棟、孤立救助者数は約四千人となる等、甚大な被害が発生しました。

これを踏まえ、大規模氾濫に対する減災のための治水対策のあり方について「～社会意識の変革による「水防災意識社会」の再構築に向けて～」が答申されました。

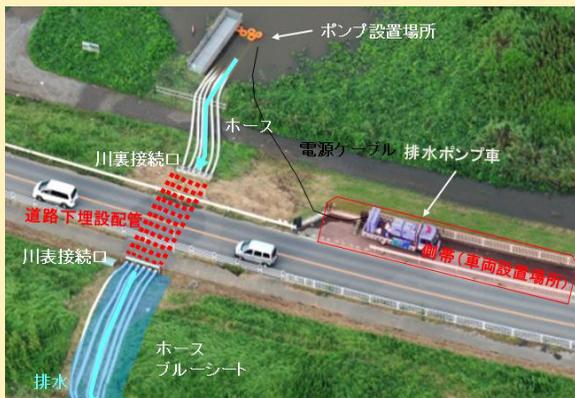
「水害は施設整備によって発生を防止するもの」から「施設の能力には限界があり、施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するもの」へと意識を変革し、社会全体で洪水氾濫に備える「水防災意識社会」の再構築が求められています。

荒川水系（埼玉領域）においては、地域住民の安全・安心を担う44市町、埼玉県等で構成される「荒川水系（埼玉領域）大規模氾濫に関する減災対策協議会」を2016（平成28）年5月に設立しました。同年9月には今後概ね5年間に及ぶ「取組方針」を協議会にて策定しました。

▶ 荒川での水防災意識社会再構築ビジョンの取組効果

荒川上流河川事務所と桶川市は、荒川支川の江川における排水活動の円滑化に係る覚書を締結しました。
(2005 (平成17年))

梅雨や台風などが来る出水期の前に堤防の低い箇所や水防上注意を要する箇所(災害履歴のある箇所や新しい堤防)などについて、埼玉県、荒川沿川の各市・町、水防団、地域住民などと共同点検を実施しました。



覚書に基づいて、排水活動を円滑に行うための施設(道路下配管及び側帯)を整備(訓練の様子)

2017 (平成29) 年10月23日台風21号による出水時には、桶川市の要請に基づき、迅速な排水作業を実施しました。



合計 約8万㎡の排水を実施



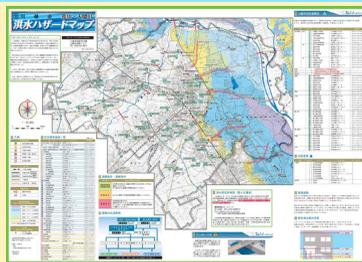
高麗川関越自動車橋梁付近の点検の様子



都幾川の共同点検の様子

▶ 河川情報や氾濫情報を的確に入手することが大事です

「ウチは大丈夫」では、いざという時、身を守れません。円滑・迅速な避難のためには、日頃から自分が住んでいる場所の水害リスク情報や避難場所を把握し、災害時には正確な情報を入手することが肝心です。



浸水する範囲、水深、避難場所を示した「洪水ハザードマップ(川越市)」



荒川や入間川、その他支川のリアルタイム画像を掲示した荒川上流河川事務所HP

コラム タイムライン(事前防災行動計画)

タイムラインとは、災害が発生することを前提として、関係者が災害時に行う防災行動を時系列に沿ってとりまとめたもので、「いつ」、「何を」、「誰が」が明確になることから、防災力の向上に役立ちます。

川越市では、避難勧告発令に着目し、河川の水位に基づいて、関係者がとるべき行動を、予めタイムライン形式に整理。2016 (平成28) 年8月22日の台風9号による出水時には、策定したタイムラインに基づく円滑な避難勧告の発令が行われました。



川越市タイムライン

